

SAP S/4HANA®のリビルドで アドオンを半分以下に削減 経営の進化に追隨できるシステム環境を実現

課題

- システム運用における低コスト構造への転換
- 事業変化への柔軟な対応、事業継続対策の強化

解決

- SAP S/4HANA導入によるシステムのリビルド
- インフラ基盤のクラウド化とDR環境整備

効果

- 不定買機能の実装を標準機能で実現
- パフォーマンスの大幅な向上

「食のフロンティアカンパニー」として多彩な事業を展開しているニチレイ。同社は、低コスト構造への転換と事業継続対策の強化を目的に、SAP® ERPからSAP S/4HANAへのシステム刷新を決断。日立フーズ&ロジスティクスシステムズと日立製作所の協力の下、計画通りのスケジュールでリビルドを実施しました。標準機能を最大限活用することでアドオンを53%削減したほか、食品業界に不可欠な不定買の機能をSAP S/4HANAの標準機能として世界で初めて実装しました。

事業変化への柔軟な対応と 災害対策を目的に 基幹システムの刷新を決断

冷凍食品のパイオニアとして知られるニチレイ。2005年4月に持株会社体制に移行し、加工食品事業「ニチレイフーズ」をはじめ、水産・畜産事業「ニチレイフレッシュ」、低温物流事業「ニチレイロジグループ」、バイオサイエンス事業「ニチレイバイオサイエンス」など、多彩な事業を展開する企業グループとして活動しています。

現在は2016～2018年の中期経営計画のもと、主力事業のさらなる強化による持続的な利益成長と、資本効率の向上に取り組んでいます。その中で、最終年度の2018年を目処にシステムをSAP S/4HANAに切り替える方針を定めました。背景について経営企画部 副部長（情報企画担当）の小松 唯史氏は次のように語ります。

「2001年からSAP ERP（当時はSAP® R/3®）を利用してきましたが、従来の業務を継続することを優先したために既存システムにはアドオンが多く、業務効率や企業価値の向上に取り組む際のハードルになっていました。そこでSAP S/4HANAへの移行を機に、事業変化への柔軟な対応と、維持管理コストの軽減による『低コスト

構造』を実現したいと考えました」

また、既存システムはデータセンター1か所で運用していたため、災害時の事業継続には不安が大きかったといえます。そこでインフラ基盤をクラウド化し、合わせてディザスタリカバリ（DR）環境を構築することにしました。

新規で構築するリビルド方式で 円滑なUnicode化と標準化を実施

SAP S/4HANAへの切り替えについては、SAP ERP導入時から関わってきたメンバーが主体となって対応できる間に実施し、またDR環境を早期に実現できるよう2018年5月の本稼働をめざしました。特徴は、現行システムをそのまま移行する「コンバージョン」ではなく、新たなITインフラを用意して新規にSAP S/4HANAを構築する「リビルド」を採用したことです。その理由について、ニチレイと日立製作所が共同で設立し、ニチレイのIT開発と運用保守を担う日立フーズ&ロジスティクスシステムズ（以下、日立F&L）理事 ソリューション第一事業部 事業部長の栗田 琢氏は次のように説明します。

「1つは、今までアドオンで対処してきた不定買（食肉など個々の重量が異なる商品の管理）の機能をSAP S/4HANA

の標準機能で実装するためです。また、既存システムはUnicode未対応だったので、Unicode化してさらにアップグレードするという手間を避け、開発コストを低減したいと考えました」

プロジェクトは、日立F&Lの親会社でありERPプロジェクトに精通している日立製作所の知見を活用。日立製作所と日立F&Lが連携して推進しました。

「SAP S/4HANAは新しい技術だけに、プロジェクトの実績と技術力を重視しました。当社が導入を検討した2015年9月当時、日立グループの総力を結集したSAP S/4HANAの導入支援ソリューションがリリースされ、導入方法論が確立されていたことが決め手になりました」（小松氏）

他社に先駆けて SAP S/4HANAの不定買の 機能を採用

プロジェクトは2016年7月にスタートし、要件定義、設計・開発、テストを経て2018年5月の連休に本稼働を実現。プロジェクト開始前には事業会社を含め、経理部門や物流部門のユーザーにSAP S/4HANAの機能説明会を実施。全社一丸でのプロジェクトであることを広く通



株式会社ニチレイ

所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
 設立 1945年12月1日
 売上高(連結) 5,680億3,200万円(2018年3月期)
 従業員数(連結) 15,787名(2018年3月31日現在)
 事業概要 加工食品事業、水産事業、畜産事業、低温物流事業、不動産事業、バイオサイエンス事業

知し、導入後のイメージギャップの解消を図りました。

要件定義のフェーズでは、アドオンの大幅な絞り込みを行いました。特に、複雑なアドオンで実現されていた不定貫の機能については、SAP S/4HANAの標準機能で実装することにこだわったといいます。

「プロジェクト開始当初は、SAP S/4HANAに不定貫の機能が標準で実装されるか未定でした。そこでSAP社に直接交渉し、2017年2月のバージョンで実装されることが決まりました。つまり、SAP S/4HANAによる不定貫の機能はニチレイが世界で初めて導入したことになります」(栗田氏)

またDRについては、東日本と西日本にクラウド環境を構築。メインサイトを西日本、DRサイトを本社がある東日本に置く「たすき掛け構成」とすることで、システムと業務を行う人を分散させています。

今回のプロジェクトで日立F&LはSAP S/4HANA導入をリードし、日立製作所はプロジェクトのPMOとして主にSAP S/4HANAの導入における品質マネジメントとインフラ構築を担当しました。

「約15年ぶりとなる基幹システムの新規導入において、日立製作所の的確なプロジェクト運営力は非常に頼りになりまし

た。ニチレイグループの業務プロセスとシステムへの理解が深まり、日立F&Lの若手メンバーにもSAP S/4HANAのノウハウが蓄積され、世代交代も実現できました」(栗田氏)



アドオンを半分以下に削減しパフォーマンスも大幅に向上

SAP S/4HANAのリビルドによって2,000本弱のアドオンを53%削減しました。

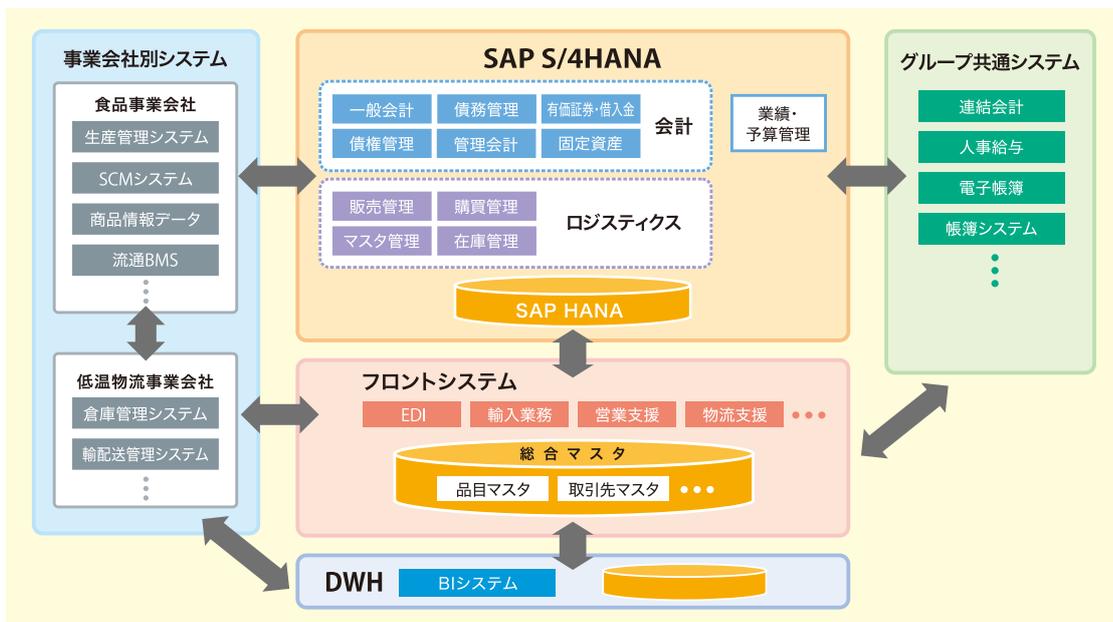
システムのパフォーマンスも向上し、夜間バッチの処理時間が大幅に短縮。さらに夜間に実行していた処理を日中にバックグラウンドで処理することで、夜間のシステム停止時間が短くなり、グローバルビジネスにも対応できるようになりました。

今後については、今回実装しきれなかった機能を2019年にかけて追加し、

ユーザーからの要望に応じていく考えです。さらに中期経営計画の施策に掲げる海外事業の拡大に向けて、SAP S/4HANAの海外展開も構想しています。

「現状、海外システムは対応していませんが、会計や物流の業務連結も考慮すると、海外と国内のシステム統合によるメリットも得られると考えています」(小松氏)

食の安全・安心・安定を通じて、世界に貢献していくニチレイグループ。ITシステムの進化はこれからも続いていきます。



システム概要図

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 産業・流通ビジネスユニット
<http://www.hitachi.co.jp/sap/>